

清流大川

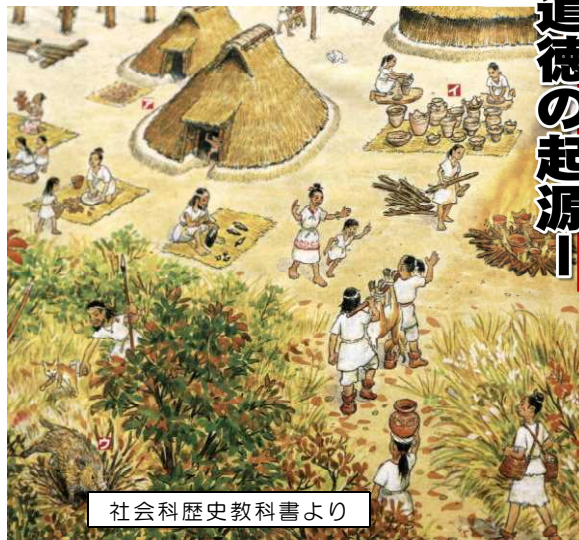
羽地中学校
学校だより 169号
せいりゅうおおかわ
H31. 1.30

どうして道徳授業をするの？

—道徳の起源—



文部科学省が研究委託している道徳教育研究発表会（一年次）が28日、屋部中学校でありました。
公開授業の後、立命館大学 教職研究科准教授の荒木寿友氏の記念講演を拝聴しました。
講演の中で道徳の起源について触れていたのが面白かったので、記載します。
道徳が生まれたのは、文化人類学、進化心理学の研究から、原始社会だと言われています。今から20万年〜4万年前の世界と人間を想像してみよう。狩猟を主とした30名から50名程度の共同社会だ。
当時の人間にとって根本的な問題は、「生きる」ことである。「なんと少しでも生き抜く」



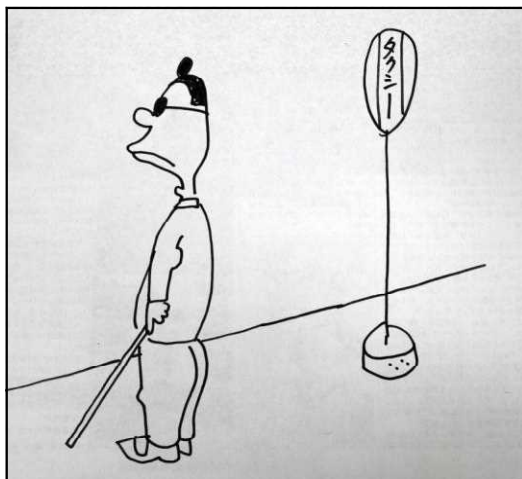
社会科歴史教科書より

ことだ。では、生き抜くためには何が必要か。
「食べる・住む・着る」ものがあることだ。食へ物は探さなくてはならない。木の実や果物以外にも、肉や魚も必要だろう。そのためには、時には命をかけることもあるだろう。また、人間は眠らなければ、体力が続かない。獣に襲われずに安心して眠れる場所が必要だ。そして、着る物。体温を保持するために草や布のような物が必要であったはず。



この人は誰でしょう？

根本にあるのは、生きることであり、一人でいて不安な生活を送るより、集団でいた方が断然、生存率は高くなる。みんなで居た方が食へ物にありつけるし、着る物も眠る場所も確保できるのだ。かくして、人間は様々な危機に直面した場合、独りで生きるよりも他者と一緒にいた方が生存する確率が高くなることを学んだ。
ここにおいて、他者と共に生きていくことが人間として生存するための前提となった。人間が争いを避けるのも、生存することと対極にあるからです。
他者と生きていくためには、食へ物を分配しなければなりません。まさにこの食料の分配によって「公平性」「平等性」が大切になってきます。特定の人だけが食べて、他の人が食べられない状況は、集団で生存するという可能性を低下させます。出来るだけ多くの人が生き残るためには、公平に食へ物を分配しなければなりません。
一方で、食べる事は生きることと直結するので、当然たくさん食べたい「ズル」する人が出てきます。
こういう人物には、場合によっては「集団から排除される」という「罰ルール」が適用されます。集団からの排除は、当時は「死」を意味します。規則を守りたいたいという「良心」が生まれてきます。
生き延びていくためには、自分だけでなく、次の世代へ命をつないでいく必要があります。つまり、パートナーを得て子孫を残していくという選択です。良いパートナーを見つげるためには、「思いやりや親切心」が行動として表れるようになりまし。



四コマまんがで考える道徳

- この絵の人は何をしていますでしょう。
- あなたなら、この後、どのような4コマまんがを考えますか？この人がハッピーになれるように描きましょう。

隣同士、ペアになって展開を考えました。この後、別のもう一人がやってきて、話しかけるとしたら、どんな会話をしますか？。など話し合いました。

こうして道徳は、人間の長い歴史の中で、私達の脳にインプットされ、人が集団の中で生きていくための方法である道徳が生まれてきたのです。
どうです？。道徳の起源が分かりますか。私は納得しました。
来年度から特別な教科道徳が始まります。新しい教科書が採用され、物語や人物の心情を理解するだけではなく、自分の生き方や考え方と照らし合わせて「考え、議論する道徳授業」が始まります。